

シリーズ

東京大学演習林について シカによる森林被害と対策について

樹木医 相川美絵子



(千葉演習林のニホンジカ)

房総半島南東部に位置する東京大学大学院農学生命科学研究科附属千葉演習林（以下、千葉演習林）では、ニホンジカ（以下、シカ）による被害が深刻である。

植栽したスギやヒノキの新芽を食べてしまうため、山に植えた植栽木が枯れてしまうか、枯れなくても盆栽状になり正常な生育が困難な状態になっている。

1980年代からシカによる被害が目立ち始め、現在では新規に植栽する場合は、

防護柵を張りめぐらせた林に植栽する、苗木 1 本ずつを生分解性のあるネットやプラスチック素材のチューブで囲って防護する、シカの口が届かない高さの大苗を植栽して頂端部分の被害を防ぐなどで対策をしている。



(防護柵)



(生分解性のあるネット)

それぞれの対策には一長一短があり、いずれにせよ手間とお金がかかる仕事である。

の防護柵は大面積であれば比較的成本が少ないが、一ヶ所でも柵が壊れるとシカが侵入してしまうため、定期的に見回ってメンテナンスすることが必要である。は、単木あるいは小面積の植栽に適しているが、1 本あたりの手間とコストがかかる。プラスチック製のチューブは、植栽木もろとも風で倒れる、植栽木の樹高成長が優れているのに対し直径成長が劣るためチューブを外した後に植栽木が倒れやすいなどの弊害がある。の大苗植栽は、資材を購入する必要がないが、山に植栽する際の運搬が困難であり、無事活着するか懸念される。

天然木の萌芽も食べてしまうため、天然林の植生が変化している。シカの好きなアオキなどは平坦なところには全く残っておらず、逆にシカの嫌うにおいを持つマツカゼソウや、トゲのある植物（ジャケツイバラなど）が増加した。植物の種類が単純化するという事は、生態系の多様性も減少することにつながり、深刻な事態に直面している。

シカの生息頭数を減らすために、わなやハンターによるシカの有害鳥獣駆除が行なわれている。それにより演習林内の一部ではシカの密度が減少してきたが、依然として密度が高く、今後も頭数調整が必要である。

参考文献

佐々木潔州・大塚明宏・塚越剛史（2003）千葉演習林のスギ植栽地におけるニホンジカの食害対策について .平成 14 年度技術官等試験研究・研修会議報告 . 3-6 .

山中征夫（2007）東京大学千葉演習林におけるニホンジカの生息数調査（1986 年，1991-2006 年の調査結果報告）. 演習林（東大）46 . 351-369 .

米道 学・永島初義・塚越剛史（2000）スギ・ヒノキ新植地におけるニホンジカの食害対策 .平成 11 年度技術官等試験研究・研修会議報告 . 90-93 .